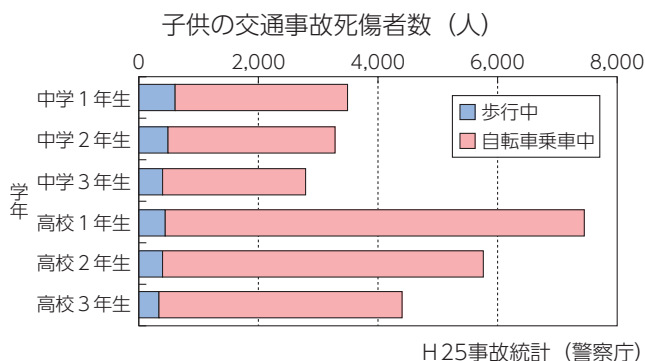


■ 高校生の自転車事故が多い！



高校生になって自転車通学をはじめた人も多いでしょう。したがって、中学生より高校生による自転車事故が多くなることは予想できます。でも、高校1年生の事故が多いのはなぜでしょう？

自転車事故は、中学生、高校生とも学年が下がるほど多くなっています。はっきりした理由は明らかではありませんが、通学路や通学環境に対する不慣れ、自転車通学の経験の乏しさや運転技能の低さなどがあると考えられます。

■ 自転車の特性を知ろう！

自転車事故では、相手が車か人かによって、自転車側の結果が大きく異なります。例えば、相手が車の場合は、自転車運転者の99.6%が負傷または死亡し、車の運転手はほとんど無傷です。しかし、相手が人の場合には、自転車運転者の9.7%しか負傷・死亡にいたりませんが、相手の人は93.5%が負傷・死亡しており、傷つける側になってしまいます。

（公財）交通事故総合分析センター

■ 自転車事故でも大きな責任を負うことになる！

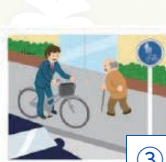
- 女子高校生が夜間、携帯電話を操作しながら無灯火で走行中、前方を歩行中の看護師（57歳）の女性と衝突。看護師には重大な障害（手足がしびれて歩行が困難）が残った。
（損害賠償額5000万円、横浜地方裁判所、平成17年11月25日判決）
- 男子高校生が昼間、自転車横断帯のかかなり手前の歩道から車道を斜めに横断し、対向車線を自転車で直進してきた男性会社員（24歳）と衝突。男性会社員に重大な障害（言語機能の喪失等）が残った。
（損害賠償額9266万円、東京地方裁判所、平成20年6月5日判決）

【「自転車運転者講習制度」の運用開始】（平成27年6月1日施行）

自転車による交通事故を減らすことをねらいとして、信号無視や一時不停止等の悪質・危険な交通違反を繰り返す者に対して、自転車運転者講習の受講が命じられるようになりました。自転車安全利用五則をもう一度確認し、安全運転を心がけましょう。

自転車安全利用五則って、具体的に説明できる？

- ① 自転車は車道が原則、歩道は例外、② 車道は左側を通行、③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行、④ 安全ルールを守る（二人乗り・並進の禁止、夜間はライトを点灯など）、⑤ 子供はヘルメットを着用



警察庁ホームページより

自分の命だけでなく相手の命も守るために……

 文部科学省DVD教材「安全な通学を考える～加害者にもならない～」より

下の写真は、自転車を運転して、信号機のある交差点にさしかかった場面です。この次にはどのような危険が発生すると思いますか？また、事故を避けるためには、どのようなことができますか？



交差点での運転

自転車の法令違反は少なくありません。例えば、一時停止標識のある場所での事故について、一時停止の無視の割合は自転車が80%であり、自動車（36%）の2倍以上でした。信号無視も自転車では33.9%見られ、やはり自動車（16.9%）の約2倍でした。

（公財）交通事故総合分析センター、2009

交通状況は、時々刻々と変化します。交通状況内の危険を適切に認知し、次にどのような事態になるかを予測すること（危険予測）と、適切な安全行動を選択すること（危険回避）は、重要な安全技能の一つです。

自分の走り方のイメージをもとう！

自分では大丈夫だと思っていたとしても、他の歩行者や自動車の視点から見ると、危ない走り方をしている場合があります。「止まる」「見る」「確かめる」などの危険回避行動や走る速度について、自分の走り方を振り返ってみましょう。

自分の感情をコントロールしよう！

焦った気持ちで自転車を走らせると、自分の走り方はどのように変化するかを知り、感情をコントロールする方法を身に付けましょう。また、通学時には時間的に余裕をもって出かけることも大切です。

歩道での違法駐輪はやめよう！

駅前などの歩道では様々な人が通行していますが、そのような場所に自転車を止めると、通行できるスペースが狭くなります。写真のように歩道の半分以上を違法駐輪車が占めると、子供や高齢者、車いすの人たちなどにとってはとても危険な場所になります。

また、自転車は歩道を通るときは、歩行者優先で通行しなければなりません。その場合には、原則として、すぐ停止できるような速度で走行するとともに、歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止をしましょう。歩道では、視覚や聴覚に障害のある人など様々な人が通行しています。



ある地下鉄駅前の歩道の違法駐輪